

2級建築士 H29製図の「計画の要点等」の予測解答

【H29設計製図課題】

家族のライフステージの変化に対応できる三世代住宅（木造2階建て）

「計画の要点等」は、毎年3問程度の課題があり、それについて、100字～200字程度で記述解答する。研究会では、この計画の要点等の配点が大きいと判断している(合否に大きく影響)。

この計画の要点等は、H24新試験制度となってから組み込まれたものであり、どのような意図で計画したかを、図面だけではなく、文章でも解答するものである。図面との整合性も大きなポイントなるが、図面だけでは表現できない点も「設計理由」として記述することとなる。高得点を取るためには、できるだけ丁寧な文字とし、シンプルで伝わりやすい文章とし、必ず、理由を書くようにする。

研究会は、H29の計画の要点等の予測課題として、下記4課題と解答をまとめた。

実際の試験では、毎年3課題程度が出題されていることから、1課題多い設定であるが、この4解答は丸暗記して頂きたい。

なお、新試験制度から4.5時間が5時間となったことから、この計画の要点等の時間は、30分で書き上げるものと判断できる。丸暗記と予測課題が的中した場合、この30分の半分程度の時間を作図へ回すことができる。

【予測課題1】

・建築物の配置計画について、工夫したこと

【解答1】

・建築物の配置計画は、三世代が交流する屋外テラスを日照と眺望の良い南面に大きく確保するために、建物をできる限り北側に寄せて計画した。

【予測課題2】

・居間の計画について、工夫したこと

【解答2】

・三世代が交流する場である居間は、日照と景観の良好な南面に配置し、開放的な雰囲気となるように、吹き抜け空間とし屋外テラスへ直接出入りできるように計画した。

【予測課題3】

・親夫婦の将来の高齢化に対して、配慮したこと

【解答3】

・親夫婦の将来の高齢化に対して、移動距離を短くするために、寝室を玄関と浴室の近くに配置した。また、建具は、車椅子となった場合でも対応できるように、すべて引き戸とした。

【予測課題4】

・子どものライフステージの変化に対応する上で、工夫したこと

【解答4】

・現在1室となっている子ども室は、将来、2室にすることができるようにするために、出入口、窓、収納を各2か所設けて、中央に可動間仕切りで分けられる計画とした。